

平成21年度フォローアップの実施について

－「分野別推進戦略」、「科学技術連携施策群」－

平成 22 年 3 月 3 日
分野別推進戦略総合PT

1. 今回フォローアップについて

科学技術基本計画（平成 18 年 3 月策定）が定める8分野（ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料、エネルギー、ものづくり技術、社会基盤、フロンティア）に関する政策課題対応型研究開発を対象として、毎年度末のフォローアップを実施する。現行の「分野別推進戦略」の最終年度（平成 22 年度）を間近にした現状の整理を目的として、21 年度の取組みを中心に当該戦略を巡る情勢変化を含めてとりまとめる。

さらに、関係府省の連携によって推進する「科学技術連携施策群」についても、19 年度に開始した計6テーマ／群の補完的課題がすべて終了するため、その成果についてとりまとめる。

【参考】「科学技術基本計画（平成 18 年 3 月 28 日）」より抜粋
第5章 総合科学技術会議の役割

2. 具体的取組

（6）科学技術基本計画の適切なフォローアップとその進捗の促進

以上のような取組を推進するとともに、基本計画に掲げた施策の実施状況を関係府省の協力の下、フォローアップを行い、必要に応じ意見を付して内閣総理大臣及び関係大臣に提示する。フォローアップは毎年度末に行い、3年を経過した時に、より詳細なフォローアップを実施し、その進捗を把握するとともに、必要に応じ計画に掲げた施策の変更などに柔軟に対応する。また、科学技術システム改革に関しては、計画に定められた施策の進捗を促進・誘導するために、必要に応じて所要の措置を講じる。

2. フォローアップの手順

関係府省に対して必要な情報提供を依頼し、その報告に基づき、各分野及び各施策群のフォローアップ原案を作成した後に、分野別 PT の検討を経て、本 PT においてフォローアップ結果をとりまとめる。

3. 今後の予定

6月頃を目途に、フォローアップ結果をとりまとめ、公表する。

(参考1)「分野別推進戦略」(平成 18 年 3 月 28 日、総合科学技術会議)より抜粋

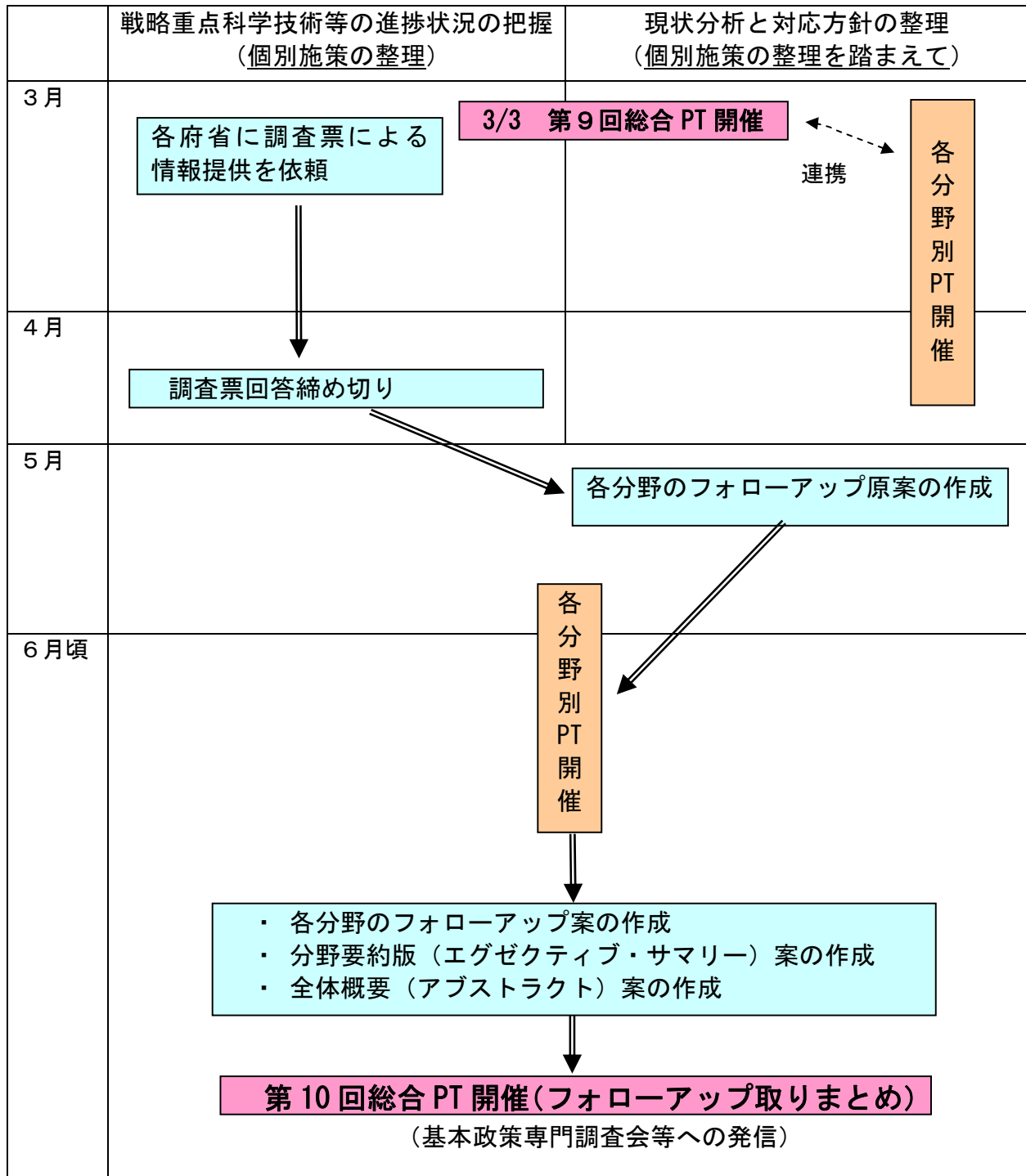
「**重要な研究開発課題**」は、今後5年間に政府が取り組むべき重要な課題を、将来波及予測、国際競争、政策目標への貢献、官民の役割分担など総合的な視点から抽出したものである。また、各課題毎に研究開発目標及び成果目標を政府の責任部署とともに明記し、政府の研究開発が何をめざすのかを明らかにしている。

「**戦略重点科学技術**」は、重要な研究開発課題の中から今後5年間に集中投資すべき科学技術として、急速に高まる社会・国民のニーズに迅速に対応すべきもの、国際競争を勝ち抜くために不可欠なもの、国主導の大規模プロジェクトで国家的な目標と長期戦略を明確にして取り組むもの(国家基幹技術)を選定した。

(参考2)平成 21 年度に補完的課題が終了する科学技術連携施策群
(平成 19 年度～)

名 称 【関係府省】	主 監
臨床研究・臨床への橋渡し研究 【文科省、厚労省、経産省】	松澤 佑次 (財)住友病院院長
食料・生物生産研究 【内閣府(食品安全委員会)、文科省、厚労省、農水省、経産省】	小川 奎 (財)日本植物調節剤研究協会会長
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 【総務省、文科省、経産省】	西尾 章治郎 大阪大学理事・副学長
総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発 【厚労省、農水省、経産省、国交省、環境省】	安井 至 (独)製品評価技術基盤機構 理事長
ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発 【文科省、厚労省、農水省、経産省、環境省】	中西 準子 (独)産業技術総合研究所安全科学研究部門長
テロ対策のための研究開発ー現場探知システムの実現ー 【内閣官房、警察庁、総務省、財務省、文科省、経産省、国交省、防衛省】	森地 茂 政策研究大学院大学教授

平成21年度フォローアップ（「分野別推進戦略」）のスケジュール



※現時点での見通しを示したものであり、時期等が前後する場合がある。

平成 21 年度フォローアップ（「分野別推進戦略」）の 概要、分野要約版、本文の作成について

概 要 “アブストラクト”

<方針>

1. フォローアップ本文、分野別の「要約版」の内容を踏まえて、フォローアップの概要を分野横断的に概観できるものとする。
2. 総合 P T において、とりまとめる。

<構成>

1. 平成 21 年度の進捗状況に関連して、「主な成果」、「期待される将来のイノベーション創出」について、分かり易い図表として整理。
2. 参考として、現時点の「重要な研究開発課題」と「政策目標」の関係も整理する。
3. 「今後の課題」について、分野横断的に整理。

分野要約版 “エグゼクティブ・サマリー”

<作成方針>

1. フォローアップ本文のうち、「平成 21 年度の進捗状況」、「現状分析と対応方針」について、各分野別に作成する。
2. 各分野 P T において、とりまとめる。

<構成>

1. 平成 21 年度フォローアップ本文のうち、「平成 21 年度の進捗状況」と「現状分析と対応方針」を要約する。
2. パワーポイント 2 ページの簡潔なものとする。

本文(全体構成案)

目次及び内容
1. 今回フォローアップの目的 ※本年のフォローアップ方針について
2. 分野別推進戦略の現状 (1)分野別推進戦略について ※分野別推進戦略の概要を説明 (2)予算の状況 ※全分野の予算の推移、重点化の状況等について、図表を中心に説明 (3)状況認識 ※平成21年度の各分野を取り巻く状況について全体的に記述
3. 平成21年度における各分野の進捗状況 (参考資料:関係府省の報告、「戦略重点科学技術」の俯瞰図) (1)平成 21 年度の進捗状況(主要な成果と課題、研究開発の見直し) ※ 関係府省から報告があった、平成 21 年度中の重要な取組み(具体的な成果、研究開発計画の見直し等)を記載する。 ※ 関係府省から報告があった、現在の進捗状況からみた「目標達成のための課題」、「国際的な位置づけ・意義」を記載する。 (2)中間フォローアップ(平成 21 年5月)への対応 ※ 進捗状況が遅れている(■、■■)とされた課題への対応について、関係府省報告をとりまとめる。
4. 各分野における現状分析と対応方針 (1)近年の情勢 (2)現状における課題や問題点 (3)対応方針 ※ 3章の記述を踏まえて、必要に応じて、中間フォローアップ(H21.5)時に作成した「現状分析と対応方針」を改訂し、今回の4章とする。

関係府省への調査依頼について

平成 21 年度フォローアップ（「分野別推進戦略」）を実施するため、関係府省に対して、以下の情報提供への協力を依頼する。

○ 様式 1

「重要な研究開発課題（273 課題）」を対象として、中間フォローアップ時（H21.5）に報告してもらった様式に、以下の項目を追加的に記載してもらう。

- ① 平成 21 年度予算（最終額、億円）
- ② 平成 21 年度の重要な取組み（具体的な成果、研究開発計画の見直し等）
- ③ 目標達成のための課題
- ④ 研究開発の国際的な位置づけ・意義

なお、中間フォローアップ時に「研究開発目標の達成状況（5 段階）」が、■又は■■■であった課題については、②に、その後の対応状況を記載してもらう。

○ 様式 2

「戦略重点科学技術（63 課題）」を対象として、関係府省における予算の重点化状況（平成 18～22 年度）を、施策ごとに記載してもらう。

様式1【〇〇分野】 重要な研究開発課題の進捗状況

重要な研究開発課題	概要	研究開発目標（○：計画期間中の研究開発目標、◇：最終的な研究開発目標）	H18～20予算 （億円）	中間フォローアップ(H21.5)時点の「研究開発目標の達成状況」	H21予算 （億円）	H21の重要な取り組み（具体的な成果、研究開発計画の見直し等）	現在の進捗状況からみた「目標達成のための課題」	現在の進捗状況からみた「国際的な位置づけ・意義」
..... ①—1	 に対して..... を提供できるネットワークを実現する。	○ 2010年までに、.....するための技術を實現する。【〇〇省】		■ ■ ■ ■ ■				
		○ 2009年度までに、.....を實現する技術を確立する。【〇〇省】		■ ■ ■ ■ ■				

留意事項

○「研究開発目標の達成状況」は、研究開発目標に対する2008年度末時点での達成水準を5段階で表す。
■ ■ ■ ■ ■：すでに計画期間中(2010年度末まで)の研究開発目標を達成した。 ■ ■ ■ ■ ■：当初計画以上に進捗しており、計画期間中の研究開発目標達成まであと一歩のところ。
■ ■ ■ ■ ■：当初計画どおり、順調に進捗している。 ■ ■ ■ ■ ■：当初計画と比べて、若干の遅れが生じている。 ■ ■ ■ ■ ■：当初計画に比べて、かなりの遅れが生じている。(研究開発目標の達成が危ぶまれる状況)

○「目標達成のための課題」については、計画期間終了時に研究開発目標を達成するために今後対処すべき課題等を記載する。

○「国際的な位置づけ・意義」については、出来る限り客観的・定量的な根拠のあるものを記載する。

様式2【〇〇分野】 戦略重点科学技術一覧

(単位: 百万円)

戦略重点科学技術	対象となる各省施策	府省名	H18予算	H19予算	H20予算	H21予算	H22予算	備考
〇〇分野合計			0	0	0	0	0	
		〇〇省						
		〇〇省						
		△△省						
		△△省						
		小計	0	0	0	0	0	
		〇〇省						
		▲▲省						
		□□省						
		小計	0	0	0	0	0	

平成21年度「科学技術連携施策群」のとりまとめについて

平成 22 年 3 月 3 日
分野別推進戦略総合 PT

1. 科学技術連携施策群の概要

「科学技術連携施策群」(以下「連携群」という。)は、テーマごとのコーディネーターを中心として、各府省において実施される関連施策の連携強化、重複排除等の調整活動を行い、関連施策の成果の最大化を図る仕組みである。

連携強化の観点から補完的に実施すべきと総合科学技術会議が判断した研究開発課題(補完的課題)については、科学技術振興調整費を活用して実施されている。

平成17年度より8テーマ／群について開始した後、19年度より新たに6テーマ／群が追加され、合計14テーマ／群について実施されてきた。

このうち、19年度をもって補完的課題が全て終了した3テーマ／群については19年度末から20年度初めにかけて、20年度をもって補完的課題が全て終了した5テーマについては20年度末から21年度初めにかけて取りまとめを行い、それぞれ分野別推進戦略総合 PT に報告されている。

2. 平成21年度に補完的課題が終了する連携群の取りまとめ

本年度は6テーマ／群について補完的課題が全て終了するため、これらの連携群について、次ページ以降の事項について簡潔に整理する。

3. 今後のスケジュール

平成22年4月～6月に取りまとめを行い、その後に開催される分野別推進戦略総合 PT に報告する。

目次構成(案)

1. 科学技術連携施策群について

- (1) 制度の目的と手法
- (2) 連携施策群の対象テーマ
- (3) 推進体制
- (4) 補完的に実施すべき研究開発課題(補完的課題)の実施

2. 各科学技術連携施策群の活動と成果、研究目標の進捗状況の評価

【各連携施策群毎に記載】

(1) ○○○連携施策群の目標

- ※ 関連分野等における当該連携施策群の位置付け(戦略重点科学技術との関係を含む)、及び明確な研究目標(方向性と具体的成果、評価指標)を記載するとともに、目標をたてた背景(開始時の状況と問題点)についても併せて記載。

(2) ○○○連携施策群の活動

① 府省間等の連携活動

- ・ 連携システム及び連携活動の総括

- ※ マッチングファンドや合同検討委員会の設置、関連技術マップの作成・共有化・活用、連携促進のための関連施策、地域における連携活動等の具体的な活動成果を記載。

- ※ 連携の最終的な俯瞰図(本連携群に登録された各府省の施策間、及び補完的課題との関係を俯瞰した図)を含む。

- ※ 連携施策群に含まれている府省施策の一覧表(施策名、施策期間、担当府省、各年度の予算額・執行額、政策・成果目標及び目標達成状況を記載したもの)を含む。

② 補完的課題の成果概要

- ・ 課題の概要
- ・ 成果の概要

- ※ 成果の詳細(研究成果報告書ではなく数頁程度のものを想定)については別途資料を添付。

(3) ○○○連携施策群の成果と研究目標の進捗状況の評価

※ 連携施策群としての具体的な成果を記載して研究目標(方向性と具体的成果、評価指標)の達成状況について評価するとともに、目標どおり(又は目標以上に)達成された背景や理由を記載。

※ 上記と併せ、残された課題や問題点、残された原因／理由についても具体的に記載。

【成果の例】

- ・ 新たに付加された価値・成果、調整により改善を行った施策
- ・ 新たに連携を行うこととなった施策、不必要な重複の排除を行った施策
- ・ 予算の効率化(削減)を行った施策
- ・ 成果の社会への還元の加速化(開発時期の早期化等) 等

【残された課題や問題点の例】

- ・ 関係係者間での情報交換や交流は進んだものの、予算の効率的・効果的な利活用や開発時期の早期化といった具体的成果が見られなかったもの 等

(4) 今後の課題

※ 今後の連携方策を含めて記載。

※ 残された課題や問題点に対して考えられる対応策についても記載。

(5) 参考

- ・ 全体をまとめたポンチ絵の作成

※ 目標－活動－成果と研究目標の進捗状況进行评估。

※ 主な具体的成果の事例(一つ以上)を記載。

(参考)

平成21年度に補完的課題が終了する連携群の一覧

名 称 【関係府省】	主 監 担当PT	補完的課題
臨床研究・臨床への橋渡し研究 【文科省、厚労省、経産省】	松澤 佑次 (財)住友病院院長 ライフサイエンスPT	「臨床研究者の人材育成に向けた取組み」
食料・生物生産研究 【内閣府(食品安全委員会)、文科省、厚労省、農水省、経産省】	小川 奎 (財)日本植物調節剤研究協会会長 ライフサイエンスPT	「植物・微生物間共生におけるゲノム相互作用」
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 【総務省、文科省、経産省】	西尾 章治郎 大阪大学理事・副学長 情報通信PT	「センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化」
総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発 【厚労省、農水省、経産省、国交省、環境省】	安井 至 (独)製品評価技術基盤機構 理事長 環境PT	「化学物質情報プラットフォームの構造とその活用に関する調査研究」
ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発 【文科省、厚労省、農水省、経産省、環境省】	中西 準子 (独)産業技術総合研究所安全科学研究部門長 ナノテクノロジー・材料PT	「ナノテクノロジーの研究開発推進の共通基盤となるデータベース指標の構築に向けた調査研究」
テロ対策のための研究開発－現場探知システムの実現－ 【内閣官房、警察庁、総務省、財務省、文科省、経産省、国交省、防衛省】	森地 茂 政策研究大学院大学 教授 社会基盤PT	「放射性物質の探知技術に関する研究」